

大崎町と「ラボ」、給食でうなぎを提供

秋の土用の丑の日である10月31日、町内の全小中学校の給食で鹿児島県大崎町のうなぎの蒲焼きを提供しました。大崎町は養殖うなぎのシェア日本で、稚魚からの養殖、加工まで

全てを行って
います。リサイ
クル率日本
一の町として
も知られ、東

川町とは「リサイクル留学生プロジェクト」など、お互いの特徴を生かした連携を行っています。

自慢のうなぎを東川の子どもたちに食べて欲しいと、ふっくらした身を無着色のタレでじっくり焼き上げ、真空



パックで東川に輸送。

東川小学校では、養殖を担う松尾周悟さん（株鹿児島

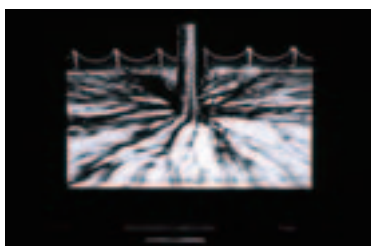
鰻）から回遊魚としてのうなぎの生態や養殖の様子を教えてもらい、「いただきますー」と食べ物や生産者に感謝する心も学びました。うなぎ初体験の子もおり、食べ方がわからず皮をはがしたり骨をとったりと困惑しつつも、はじめての味覚を楽しんでいました。給食後に生きたうなぎを間近でみた子どもたちは「でっかい！」「かわいー」「ヌルヌルしてそう」などと興味深く桶を覗いていました。

東川アウトドアフェスティバル

11月10日、せんとびゅあにて HIGASHIKAWA OUTDOOR FESTIVAL 2019が開催されました。（同実行委員会主催）

前日の深夜0時からの36時間で撮影・編集したフィルムを上映するスライドセッションでは、川上晃弘氏（旭

川市、ビデオグラフィアー）、山内麻由美氏（札幌市、林業写真家）、和田北斗氏（町地域おこし協力隊）の3人がそれぞれの視点で東川を撮影。来場者の投票でベスト・オブ・スライドに選ばれた和田氏の作品『ONE DAY』は、モノク



ロで切り撮られた神秘的な東川の表情が印象に残ります。写真。これらの作品はYouTubeで観ることができます。

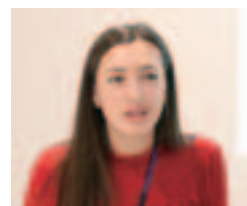
バンフマウンテンフィルムフェスティバルの映像上映では、マウンテンバイクで雪山を滑降するさまや、

CIRTOOKーハロウィンー

10月19日、第5回CIRTOOKを開催しました。8

月着任のアルタさん（ラトビア）と10月着任のタオさん（ベトナム）が自国を紹介した後、ファティさん（インドネシア）、ゾエさん（カナダ）、チョウさん（ミャンマー）、アイタリさん（ロシア）と6人で

トーク。今回のテーマであるハロウィンはケルト民族のサウィン祭（収穫と冬を迎える祭り）が起源。現在では「オバケを怖がって追い出す」か「相手を温かく迎える」に分かれ、元来の意味がなくなっている。CIRTOOKとして扱う国も多いため（日本もそうです）。



▲アルタさん



▲タオさん

ハロウィンを祝う伝統はないが、子どもは仮装してお菓子をもらう（ラトビア）。ほぼ仏教の国なのでハロウィンとしては存在しないが、鍋を叩いてオバケを追い払う風習がある（ミャンマー）。9割がキリスト教のため死者を避ける傾向にあり、ハロウィンも似た催しもないが、仮装してパーティする若者が増えてきた（ロシア）。ラトビアのクレープをつまみつつ、日本のお盆は先祖を迎える意味がありつつ「水辺に行くこと足を引っ張られる」という怖い側面も持つ、などと語りました。

CIRTOOKは今回が最終回。今後は別の形で交流する機会を検討中です。

バイク（自転車）のフリーライド発祥の物語、8歳の少年が空を飛ぶようにスキーをする映像、サーフィンのように雪山を滑るスノーボード、97歳のトレイルランナーの生き様、断崖絶壁のフリークライミング挑戦記録…。時に息をのみ、絶景に魅せられるひとときでした。